



井上 道義の 未来だった今より

僕は自分が植物だと子供の頃から思っている。それは天気良ければ全てがポジティブに考えられ、冬の曇天が続くとどこまでも落ち込み、時々病気になるほどだからだ。南国の沖縄に本当の舞台芸術があれば移住したいほどだ。しかしそれは幼稚な「憧れ」にすぎず、やはり僕に何より必要なのは、本格的な舞台での創造の自由な空間と言葉の通じる何人かの人達だ。

深さを秘めた複雑さもあるクラシック音楽を育んだ高緯度の欧州の冬は、北陸の冬よりもきつい。プッチーニのオペラ「ラ・ボエーム」に憧れ、その舞台のパリ・カルチエラタンにアパートを買い、欧州での活動に本腰を入れようとした40歳の頃、京都市交響楽団から誘われた。迷った揚げ句、日本で徹底的に戦おうと方向転換し、アパートは夏休みにバカンスで人のいない街を徘徊するための宿となり、ついに売

♪ 植物人

ってしまった。しかし本音は欧州の長い曇天生活に耐えられなかったのだ。

こんなにも自分がお天道様に影響されるなんてまるで根っこがあって動けない植物みたいだ、と感じているし、そのことを欧州のマネジャーに話したら馬鹿にされもした。とはいえ植物というのは根っこさえしっかりしていれば葉が落ちて、枝を切られても再生するすごい生き物だ。長い目で見ればその力は恐ろしいほど。

時空を越え過去の作曲家との会話を深める演奏の仕事が人生航路ならば、立ち寄る港(住む場所)は愛する人々がいるこの島国がよいのだ。そのことと、日本という国家やさえない街の景色を自分のものとするのがイコールでないのが、実は根っこのない動物的な僕の子供の頃からの問題なのだが。

(オーケストラ・アンサンブル金沢)
音楽監督

「日本手話」は日本語とは異なる文法を持つ言語だ。その学校でも手話が導入され、共通の意思疎通手段となっている。この手話の力を使いながら、教科書学習に取り組み実践がろう学校などで行われている。だが、子どもの手話を客観的に評価できるテストは、今まで日本にはなかった。

2007年度から、ろう学校で使用できる手話力の評価法の開発に取り組んだ。実用的なテストにするために、評価者の手話力を前提とせず客観的に③簡潔に評価できるという条件をクリアする必要がある。



22

いしかわ